



## 千葉 優子さん

宮城県

1年次入学 4月生

年代：50歳代（取材時）

卒業：2020年3月

職業：福祉施設関係

### Q 在学してみて感じたこと

スクーリングは学習への高いモチベーションを得られます。特に会場スクーリングでは学友と情報交換など交流もでき、日頃孤独なレポート作成に取り組む自身の存在を確認できる大変貴重な機会となりました。通信教育部の先生方や事務室の皆様は働きながら学ぶ学生を卒業までしっかりとアシストしてくださいました。

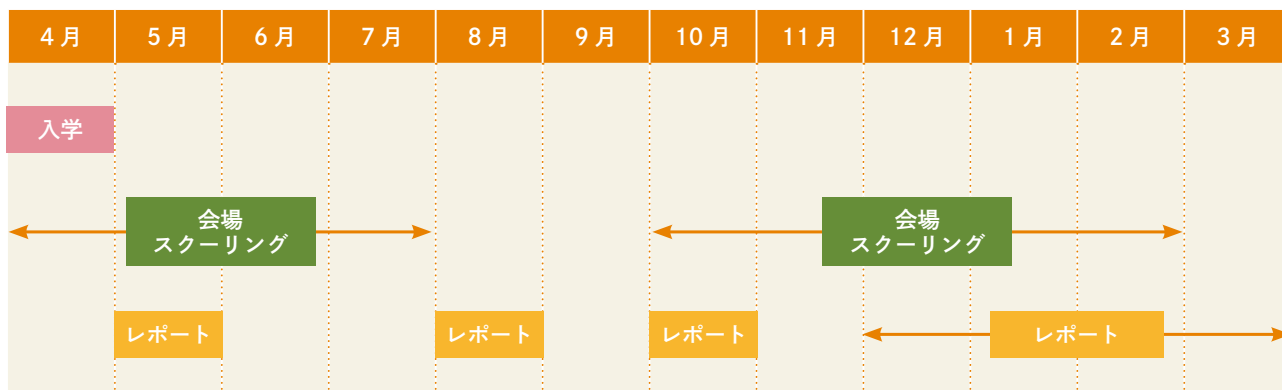
### Q 学習上で工夫したこと

集中できる早朝と、疲れて効率が落ちることもありましたが夜に、それぞれ1～2時間机に向かうようにしました。また、1年365日が一目でわかるカレンダーを壁に貼り、レポート提出予定日など学習計画を書き込んで、毎日確認しながら学習を進めました。そして学習時間の確保のため、公言して周りの理解を得られるようにしました。

### Q 大学での学びがその後にかされたこと

社会や地域、生活環境、人を多角的に捉える視点は、利用者を環境を含めて理解することにかかれています。また、相談援助の基本姿勢である傾聴は、利用者のみならず職場での人間関係構築にも役立っています。必死に取り組んだレポート作成に鍛えられ「読む、要約する、書く」力を自然に身につけることができました。

### 1年目に学習したこと





### 加藤 力也さん 社会福祉学科 2020年3月卒業

私は、精神保健福祉士である恩師に社会福祉の奥深さを教えて頂き、更に専門的な学びを深めたい一心から東北福祉大学通信教育部に入学しました。通信教育での過程において、仕事と学習の両立は一筋縄ではいかない事が多くありましたが、同じ目標を持った仲間やスタッフの方々に支えられ、自己覚知を図りながら、ひたむきに努力し続けることができたからこそ、今の私があると実感しています。

現在は、神奈川県内の精神科病院で精神保健福祉士として現場に立っており、学生時代から考え続けていた「専門職として、支援を求める人に対し何が出来るのか？最善の利益とは？」等といった答えのない問いに、今も向き合いながら支援を行なっています。

人の人生を知り、人の本質を知り、そして自分自身、人としての成長に繋がっていくからこそ、この仕事は面白いと私は思います。これから入学される方々が社会福祉の魅力を感じ、いつの日か共に活躍できることを心から楽しみにしています。

### 保積 雅子さん 社会福祉学科 2018年3月卒業

私は、精神保健福祉士と日本心理学会認定心理士を東北福祉大学通信教育部にて学び取得しました。現在は、ストレスチェック実施者と小・中学校にてスクールソーシャルワーカーをさせて頂いています。

入学当初の私は、福祉に関して無知でした。学び始めてすぐに自分自身の視野の狭さに気付かされました。東北福祉大学での学びは、私を大きく成長させて下さいました。自分の子どもが楽に生きられるように、また、人のためになるようにと始めた勉強でしたが、考え方が変化していくことで、私自身が楽に生きられるようになりました。物事を一方向に見るのではなく、多方面から見ること、俯瞰することは、今でも私の視野をどんどん広げてくれています。

また、在学中は、精神保健福祉士の国家試験受験に向けて必死で、非常に駆け足でした。仕事との両立のためスケジュール通りにはいかず、無理をした年もありました。常に、決めた期間で、必ず合格すると決断した自分との闘いです。しかし、何歳になっても「学びたい!」と思った時が、その人の学びのチャンスだと考えています。何気なくインターネットで検索した東北福祉大学通信教育部で学べたことを誇りに思っています。

スクールソーシャルワークは正解がなく、すぐに結果も出ません。子どもや保護者に寄り添っているのかと、日々葛藤しています。しかし、大学で学んだ“寄り添う支援”を常に意識し、向き合い続けることに迷いはありません。

